



SPORT
CAREER SUPPORT
CONSORTIUM
スポーツキャリアサポートコンソーシアム

令和7年度 スポーツキャリアサポート支援事業 成果報告書概要版

令和8年3月

受託事業者：株式会社エイジエック

事業の概要	3
主な取り組みと成果	4
1. 会員団体の拡大と連携推進	4
2. プロジェクトの推進	5
①アスリートキャリアコーディネータ（ACC）の育成	5
■ ACC育成プログラム	5
■ パラアスリート講習	7
■ 出張研修カリキュラム勉強会	8
②キャリアセンターの運営及び機能充実（ACCの活用）	9
③アスリートのキャリアサポートに関するプロジェクトの推進	10
3. 情報発信コンテンツの充実	15
今後に向けた検討とまとめ	18

アスリートが競技活動を通じて培った能力や経験を、競技引退後も社会において発揮し活躍していくことは、アスリート本人のキャリア形成のみならず、スポーツの価値向上やスポーツ参画人口の拡大にもつながる重要な取組である。

本事業では、スポーツキャリアサポートコンソーシアム（以下SCSC）の事務局を運営し、関係団体と連携のもと、アスリートのキャリア形成を支援する体制づくりを推進した。

主な取り組み

- 会員団体の拡大・連携推進
- プロジェクトの推進
 - ①アスリートキャリアコーディネーター（以下ACC）の育成
 - ②キャリアセンターの運用及び機能充実（ACCの活用）
 - ③アスリートのキャリアサポートに関するプロジェクトの推進
- 情報発信コンテンツの充実

上記に取り組み、アスリートが現役時代から将来を見据えたキャリア形成に主体的に取り組める環境整備を推進した。

1. 会員団体の拡大・連携推進

SCSCの理念の周知と関係団体への働きかけを通じ、会員団体の拡大および団体間の連携強化を推進した。その結果、会員団体数は**151団体**となり、前年度と比較して増加した。特に、大学や高等学校などの教育機関の加盟が増加し、アスリートと接点を持つ団体との連携が拡大した。一方で、中央競技団体や自治体の加盟は限定的であり、今後は競技団体や地域スポーツ関係機関との連携強化が課題となっている。

会員団体の推移

	団体数	増減
令和5年度	112団体	+29団体
令和6年度	130団体	+18団体
令和7年度	151団体	+23団体 ※2団体が退会

新規加盟団体の属性別内訳 (前年度新規加盟団体との比較)

分類	令和6年度 (+18団体の内訳)	令和7年度 (+23団体の内訳)
企業・法人	11団体	13団体
教育機関	3団体	7団体
自治体	—	2団体
中央競技団体	4団体	1団体
競技団体	—	1団体

2. プロジェクトの推進

① ACCの育成

アスリートのキャリア形成を支援する専門的人材であるACCの育成および活動支援を目的として、ACC育成プログラムの実施や各種講習・勉強会を行い、支援人材の育成とスキル向上を図った。

■ ACC育成プログラム

アスリートのキャリア形成を支援する専門人材を育成することを目的として、ACC育成プログラムを実施した。本プログラムでは、キャリア支援の基礎知識や、アスリート特有のキャリア課題への理解を深める講義に加え、グループワークやケーススタディ等を通じて、実践的な支援スキルの習得を図った。

本年度はベーシックコースおよびアドバンスドコースを実施し、**65名**をACCとして認定した。

これにより、ACC認定者数は**累計1,006名**となり、アスリートキャリア支援に関わる人材の拡大が進んだ。

また、認定者の多くはスポーツ関連業務やキャリア支援業務に従事しており、今後、競技団体や教育機関等におけるアスリート支援の現場での活躍が期待される。

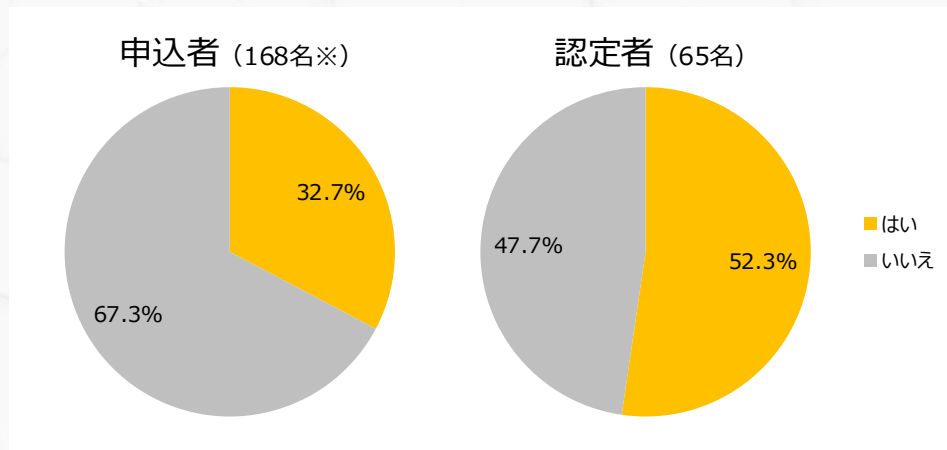
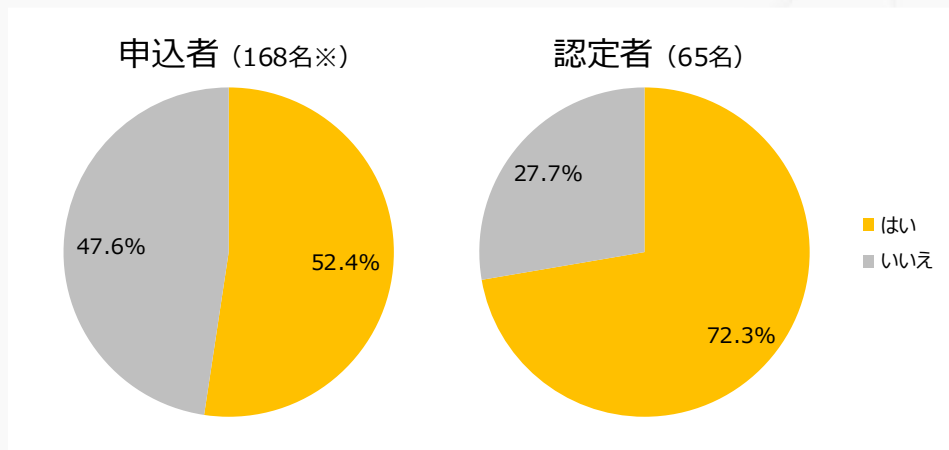
ACC認定実績

	申込者数 ※ベーシックコース	受講者数	認定者数	ACC 総人数
令和6年度	251名	206名	150名	942名
令和7年度	175名	70名	65名	1,006名 ※1名より活動辞退の申し出有

ACC育成プログラム申込者・認定者属性

Q.スポーツ関連業務に従事しているか（はい/いいえ）

Q.アスリートのキャリア形成支援の実務経験はあるか（はい/いいえ）

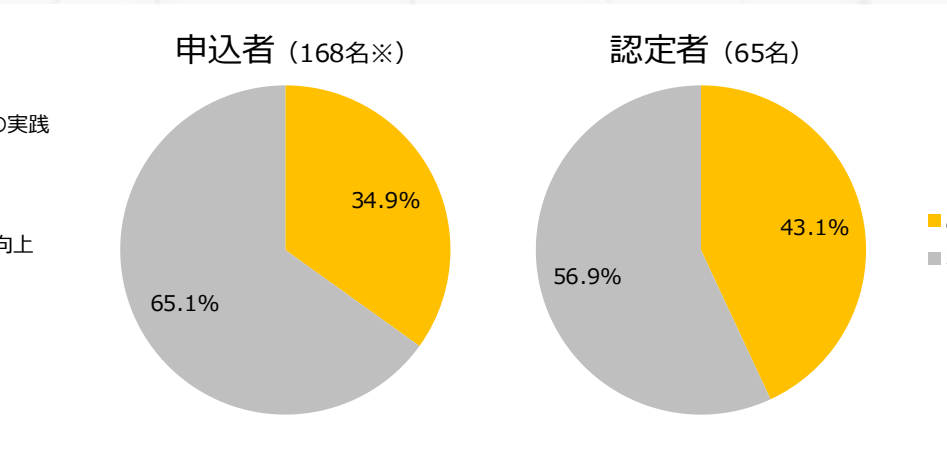
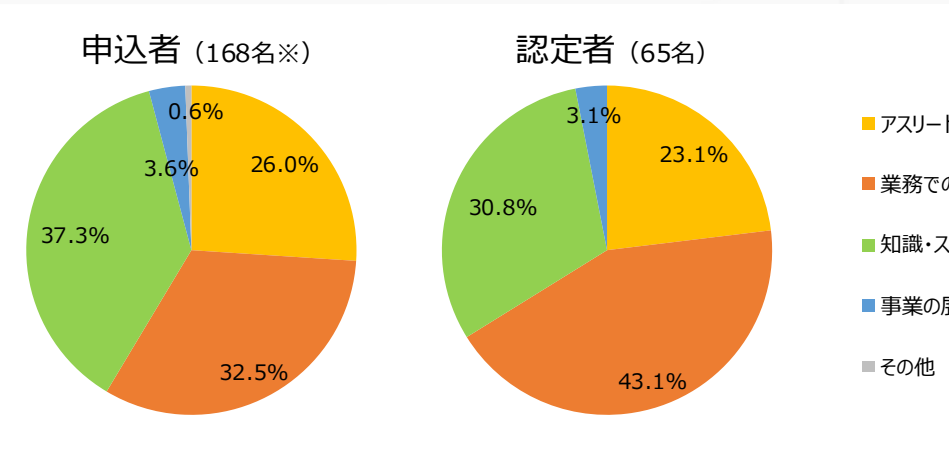


※アンケートを最後まで回答した人数

※アンケートを最後まで回答した人数

Q.受講目的（自由記述）※カテゴリー分けし掲載

Q.認定後の計画の有無（自由記述）※カテゴリー分けし掲載



※アンケートを最後まで回答した人数

※アンケートを最後まで回答した人数

■ パラスリート講習

ACC認定者を対象に、パラスリートのキャリア支援に関する理解を深めることを目的として、パラスリート講習を実施した。

講習では、障害特性の理解やパラスリートのキャリア形成に関する課題、支援のポイント等について学ぶとともに、ケーススタディやディスカッションを通じて、実践的な支援スキルの向上を図った。

受講後アンケートでは満足度が高く、パラスリート支援に関する理解が深まったとの意見が多く見られた。

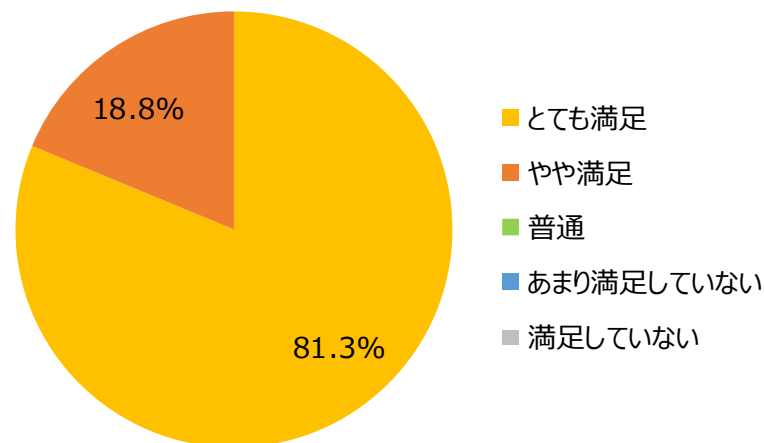
また、パラスリート講習以外のニーズを質問したところ、雇用先への働きかけ方、心理的アプローチの実践事例、競技レベル別・年代別の支援事例など、多様な学習ニーズが挙げられた。

パラスリート講習受講・修了者数

	申込者数	受講者数	修了者数
令和6年度	120名	102名	86名
令和7年度	42名	30名	27名

パラスリート講習全体の満足度

回答者（16名）



■ 出張研修カリキュラム勉強会

本年度の主要な取り組みの一つである出張研修（P10参照）の質の向上およびACCの実践機会の創出を目的として、出張研修カリキュラムに関する勉強会を開催した。

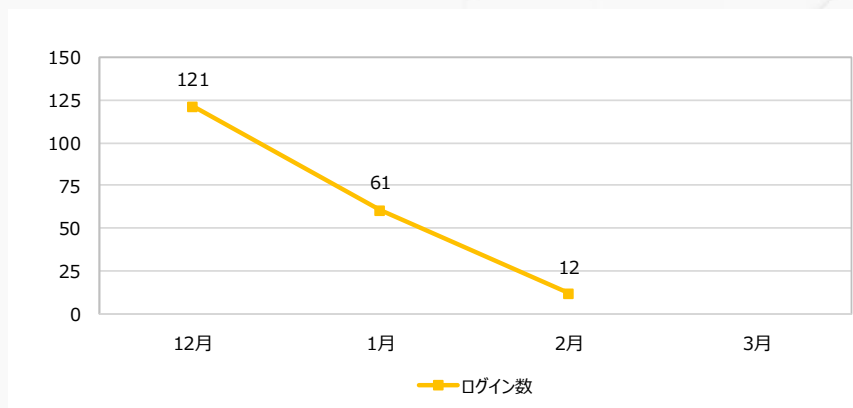
勉強会では、出張研修の目的やプログラム構成、進行方法等について共有するとともに、ACCがワークサポートとして参加する際の役割について周知を行った。

また、勉強会の内容は視聴サイトにてアーカイブ動画として公開し、ACCがいつでも学習できる環境を整備した。

実施日程・参加人数

	実施日	時間	実施形式	参加人数
第1回	2025年11月28日（金）	18:00～20:00	オンライン	91名
第2回	2025年12月22日（月）	19:00～20:00		35名
第3回	2026年1月9日（金）	18:00～19:00		59名
第4回	2026年1月26日（月）	18:00～19:00		47名

アーカイブ視聴サイトログイン状況



延べログイン数	
12月	121名
1月	61名
2月	12名
3月	0名
合計	194名

②キャリアセンターの運営及び機能充実（ACCの活用）

アスリートがキャリア形成に関する相談を行うことができる窓口として、引き続きSCSCキャリアセンターを運営し、出張研修の実施を通じてアスリートとACCの接点を創出し、研修後の個別相談につなげる導線づくりに取り組んだ。しかし、競技団体やチーム内に既存の支援体制がある場合があることや、アスリートが競技活動を優先する傾向にあること等の要因から、SCSCキャリアセンターの利用は本年度は**1件**にとどまり、外部のキャリア支援者による個別支援が活用できない、されにくい状況にあることがわかった。

キャリアセンター運用状況

	相談件数
令和6年度	7件
令和7年度	1件

③アスリートのキャリアサポートに関するプロジェクトの推進

アスリートが現役時代から将来のキャリアについて主体的に考える機会を提供することを目的として、競技団体、大学、教育機関等を対象に出張研修を実施した。

本年度は、SCSCが策定した出張研修の標準プログラムを活用し、アスリートのキャリア意識の向上を目的とした研修を全国で実施した。

本年度は**24件**の出張研修を実施し、**合計1,357名**が参加した。前年度（8件・584名）と比較して、実施件数・参加人数ともに大幅に増加しており、アスリートキャリア支援の取組が拡大した。

出張研修プログラム概要

①デュアルキャリアの理解	アスリートが直面する「競技とキャリアの両立」の課題を知り、将来に向けた意識を高める
②自己理解ワーク	社会人基礎力セルフチェックシートを活用し、「スキル」をテーマに、自分の強みや特性を整理
③将来の職業イメージ	職業例を通じて、具体的な職業像を描き、自身のキャリアの可能性を考える
④ロードマップの作成	これからの競技人生と人としての人生を見据え、自分だけの「ロードマップ」を形にする

出張研修実施件数・参加人数計

	実施件数	参加人数計
令和6年度	8件	584名（うち選手:546名／指導者:38名）
令和7年度	24件	1,357名（うち選手:1,348名／指導者・関係者:9名）

出張研修実施先一覧

2025年9月（2件）		2026年1月（8件）		2026年2月（9件）	
石川ミリオンスターズ（日本海リーグ）	33名	全日本アーチェリー連盟	21名	大阪体育大学浪商高等学校	61名
富山サンダーバーズ（日本海リーグ）	31名	MPandC	8名	新関東大学準硬式野球連盟	34名
2025年11月（1件）		パナソニックコネクト（女子陸上競技部）	8名	大阪体育大学	647名
日本水泳連盟	42名	日本大学（野球部）	48名	日本体操協会	36名
2025年12月（4件）		レジックスポーツ	34名	姫路獨協大学	27名
関東学園大学	53名	日本パラカヌー連盟	5名	日本アスリート支援協会（相撲部屋）	8名
静岡県（日本大学三島高等学校）	61名	国土館大学（野球部）	18名	日本セパタクロー協会	22名
桜美林大学（バレー部）	25名	アップルスポーツカレッジ	27名	日本フェンシング協会	25名
コットンウェイ硬式野球倶楽部	13名			松本大学	61名

さらに、本年度は中央競技団体、教育機関、自治体等との連携による研修の実施が進み、アスリートキャリア支援の取組の広がりが見られた。

特に中央競技団体との連携による研修は前年度と比較して増加し、競技団体におけるキャリア支援の取組の広がりにつながった。

また、日本オリンピック委員会とも連携し、研修にてアスナビについて説明してもらった。

自治体

中央競技団体

	実施件数	実施先		実施件数	実施先
令和7年度	1件	静岡県（日本大学三島高等学校）	令和6年度	1件	日本体操協会
			令和7年度	7件	日本水泳連盟
					全日本アーチェリー連盟
					日本パラカヌー連盟
					日本体操協会
					日本アスリート支援協会（音羽山部屋）
					日本セパタクロー協会
					日本フェンシング協会

教育機関

	実施件数	実施先
令和6年度	3件	高崎健康福祉大学高崎高等学校
		平成国際大学
		東洋大学（UNIVAS連携）
令和7年度	8件	関東学園大学
		桜美林大学（バレー部）
		日本大学（野球部）
		国士舘大学（野球部）
		新関東大学準硬式野球連盟
		大阪体育大学
		姫路獨協大学（野球部）
		松本大学

日本オリンピック委員会

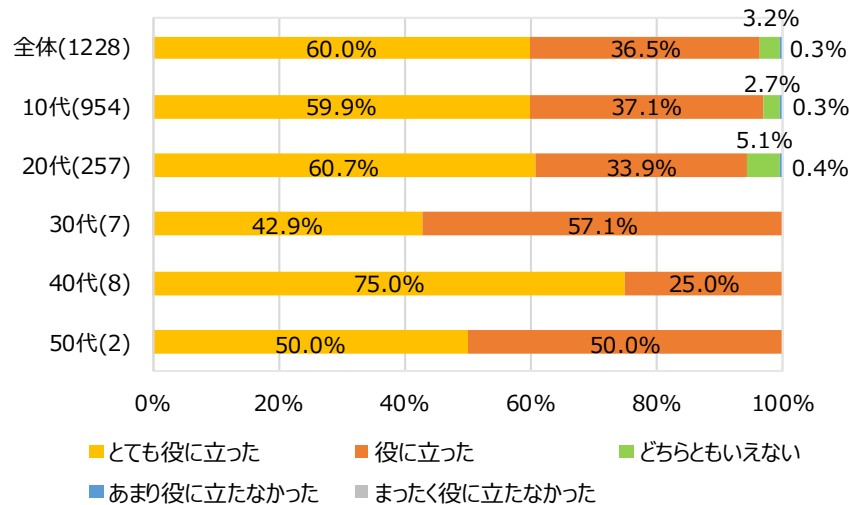
	実施件数	実施先
令和7年度	3件	日本水泳連盟
		全日本アーチェリー連盟
		日本フェンシング協会

アスリート対象・研修受講後アンケート結果（全体）

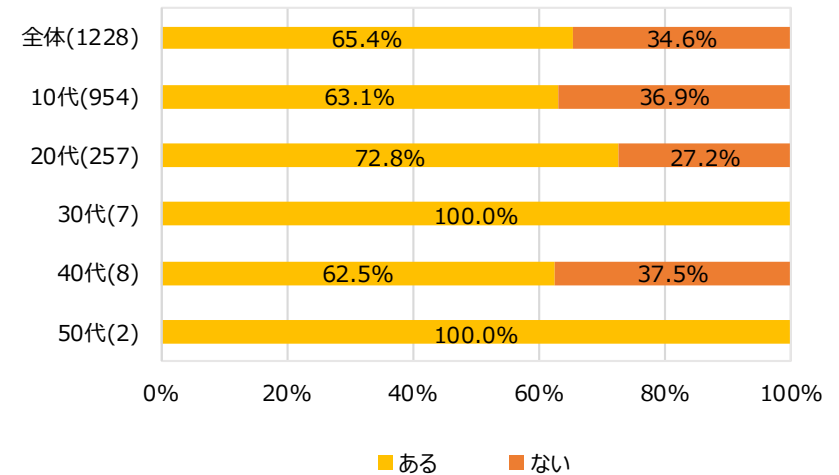
Q. 今回の研修は役に立ちましたか？（5段階評価）

Q. 研修を受けて、具体的に「やってみよう」と思った取り組みはありますか？

回答者（1,228名）



回答者（1,228名）



研修の役立ち度については、「とても役に立った」が60.0%、「役に立った」が36.5%となり、96.5%の参加者が肯定的な評価をした。

また、参加者の多くを占める10代においても、「とても役に立った」が59.9%、「役に立った」が37.1%と、97.0%が肯定的な評価をしており、若年層のアスリートにとってもキャリアについて考える有意義な機会となったことがうかがえる。

20代以上の参加者においても同様に高い評価が得られており、年代を問わず有用な内容であったと考えられる。

「研修を受けて具体的にやってみようと思った取組があるか」という問いに対しては、全体の65.4%が「ある」と回答しており、研修が単なる理解にとどまらず、今後の行動につながる意識の変化を促す機会となったことがうかがえる。

特に20代では72.8%が「ある」と回答しており、キャリア形成への具体的な行動意欲の向上にも一定の効果が見られた。

3. 情報発信コンテンツの充実

本事業の取組内容およびアスリートのキャリア形成に関する情報発信を目的として、専用ウェブサイトおよびスポーツ庁公式SNSを活用した情報発信を実施した。

ホームページでは、出張研修の実施レポートやロールモデル記事を掲載し、アスリートのキャリア事例や本事業の取組内容を紹介した。

本年度は、**ロールモデル記事・21件**、**研修レポート・20件**を掲載し、アスリートキャリア支援の取組を広く発信した。その結果、ウェブサイトのアクセス数は**3,164件**、ロールモデルページの閲覧数は**1,362件**となった。

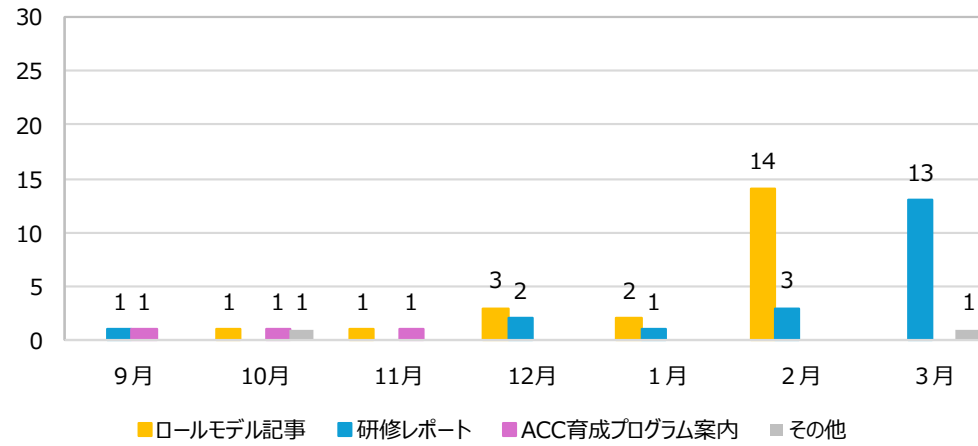
また、スポーツ庁公式SNS（Facebook、X、Instagram）による情報発信を行い、SNSの閲覧数は合計で**約21.8万件**となった。

ホームページでのコンテンツ掲載とSNSによる周知を組み合わせることで、事業の認知拡大につながったと考えられる。

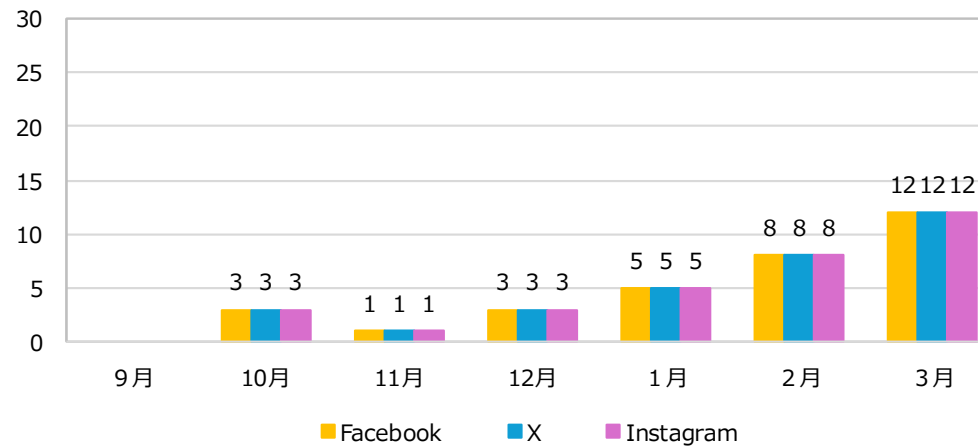
ホームページ掲載コンテンツ数

	ロールモデル記事	イベント（研修） 開催レポート
令和6年度	16件	1件
令和7年度	21件	20件

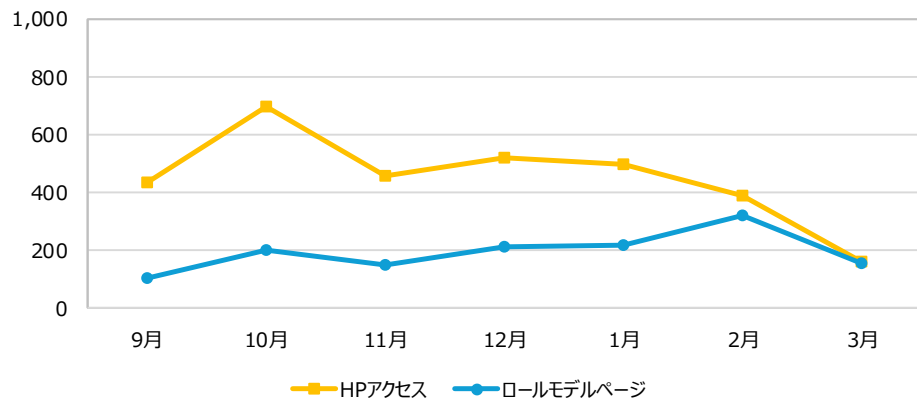
ホームページ月別掲載件数



スポーツ庁公式SNS月別掲載件数

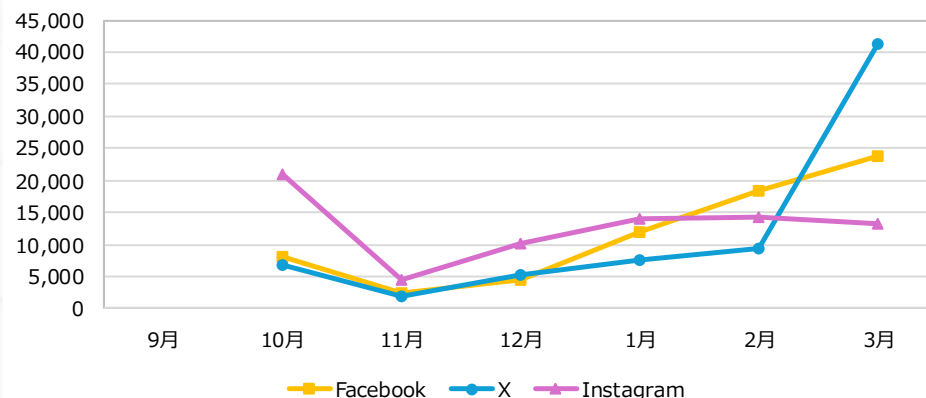


ホームページのアクセス数



	HPアクセス	ロールモデルページ
9月	434	105
10月	700	199
11月	458	149
12月	522	215
1月	499	218
2月	390	320
3月	161	156
合計	3,164	1,362

スポーツ庁公式SNSの閲覧数



	Facebook	X	Instagram
9月	—	—	—
10月	8,187	6,777	20,949
11月	2,313	1,842	4,370
12月	4,569	5,234	10,062
1月	12,014	7,447	14,024
2月	18,504	9,407	14,151
3月	23,678	41,326	13,347
合計	69,265	72,033	76,903

本事業を継続的に発展させていくため、今後は以下の点について検討を進めていく必要がある。

① 会員団体ネットワークの活性化	加盟団体数は増加しているものの、団体間の情報共有や連携の機会は十分とは言えないため、取組事例の共有などを通じてネットワークの活用を進める。
② ACCの活動機会の拡充	ACC認定者数は増加している一方で、認定後の活動機会には個人差があるため、出張研修等と連動した実践機会の創出を進める。
③ ACC資格更新制度の整理	令和8年度に予定されているACC資格更新に向け、更新制度や更新講習の内容について整理を進める。
④ 出張研修後のフォロー体制	出張研修をきっかけとした継続的なキャリア支援につながる仕組みづくりを検討する。
⑤ 情報発信内容の充実	加盟団体やACCの活動事例等の情報発信を強化し、アスリートキャリア支援の認知拡大を図る。

本年度は、SCSCの事務局の運営と、会員団体の拡大、ACCの育成、出張研修の実施、キャリアセンターの運営、情報発信の充実等の取組を通じて、アスリートのキャリア形成を支援する環境づくりを推進した。

特に、出張研修の実施拡大により中央競技団体や教育機関との連携が広がり、アスリートがキャリアについて考える機会の創出が進んだ。また、ACC認定者数が1,000名を超えるなど、キャリア支援に関わる人材の拡大も着実に進んでいる。

今後は、関係団体との連携をさらに深めるとともに、ACCの役割を明確化しながら、アスリートが現役時代から将来を見据えたキャリア形成に主体的に取り組める環境づくりを一層推進していく。